

J A 御中  
(営農担当部署)

福岡県米・麦・大豆づくり推進協議会  
(事務局: JA 福岡中央会 担い手・営農サポートセンター)  
(公印省略)

## 営農情報 20

### 暖冬に伴う麦類の栽培管理技術対策 (3)

今年の麦は、11月下旬～2月上旬が高温（平年差：+2.1℃、前年差：+0.6℃）に経過したため、生育は平年と比べ、2～3週間程度早く、生育の早かった前年よりさらに早い茎立期となっている。また、1月下旬の降水量が多く経過したため、土入れ・踏圧、追肥などの中間管理作業は2月上旬を中心に実施された状況である。

向こう1か月の季節予報（福岡管区气象台発表：2月15日～3月14日）では、気温の変動が大きく、かなり高くなる時期があり、平年と同様に曇りや雨または雪の日が多いと予想され、麦の生育、収量への影響が心配される。そこで、麦の収量安定のため、下記の麦類の生育予測を参考に、今後の対策（追肥）を実施する。

#### <作況試験（農林試 農産部）における予想茎立期>

播種時期	品種名	予想茎立期(見込)	前年値	平年値
11月20日	チクゴイズミ	2月2半旬	2月3半旬	2月6半旬
	ちくしW2号	2月1半旬	2月3半旬	2月6半旬
11月25日	ほうしゅん	2月3～4半旬	2月4半旬	3月1半旬



写真 作況試験の生育（令和2年2月14日、11/20播チクゴイズミ）  
注）赤テープは30cm。

### 技術対策

#### 1 リアルタイムアメダスを用いたムギの发育ステージ予測

- ・アメダス観測点の気温をもとに麦の发育ステージ（出穂期、開花期、成熟期）を予測。

[http://www.naro.affrc.go.jp/org/warc/meteo\\_fukuyama/WEB/wheat/1/82\\_mugi.html](http://www.naro.affrc.go.jp/org/warc/meteo_fukuyama/WEB/wheat/1/82_mugi.html)

※「ムギ 发育 予測」で検索。

■品種：チクゴイズミ 地点名：太宰府

播種日	茎立日	出穂期	開花期	成熟期
2019年11月10日 (平年値)	1月27日 (2月11日)	3月26日 (4月5日)	4月13日 (4月20日)	5月25日 (5月29日)
2019年11月20日 (平年値)	2月12日 (2月25日)	4月1日 (4月9日)	4月17日 (4月23日)	5月27日 (5月30日)
2019年12月1日 (平年値)	2月24日 (3月8日)	4月9日 (4月14日)	4月22日 (4月25日)	5月30日 (6月1日)

■品種：ミナミノカオリ 地点名：太宰府

播種日	茎立日	出穂期	開花期	成熟期
2019年11月10日 (平年値)	1月12日 (1月28日)	3月28日 (4月6日)	4月15日 (4月20日)	5月27日 (5月30日)
2019年11月20日 (平年値)	1月29日 (2月16日)	4月5日 (4月10日)	4月19日 (4月22日)	5月29日 (5月31日)
2019年12月1日 (平年値)	2月14日 (3月1日)	4月9日 (4月14日)	4月22日 (4月25日)	5月31日 (6月2日)

※予測に用いた気温は、2020年2月12日までは観測値、2月26日までは予報値、その後は平年値。予測情報には誤差があるので、あくまで参考として。

## 2 追肥

麦の生育は、過去に例がないほどに著しく早く、追肥の時期や施用量の判断が難しい状況となっている。そこで、下記の追肥方法や追肥時期ごとの麦の生育、収量および品質への影響度を参考にして、麦の生育（生育ステージ、生育量など）に応じた対策を実施する。

### 【追肥方法の目安】

#### (1) 1追ができていないほ場

- ・1追は基準量を速やかに施用。倒伏が懸念されるため、2追は省略。ただし、小麦は穂揃い期追肥を基準量より窒素成分1～2kg/10a増量（※肥料の葉面散布の場合は、濃度が濃くなると葉が焼けるため、増肥はしない）。
- ・1追に肥効調節型肥料を施用予定だった場合、化成肥料への変更も検討。

#### (2) 1追を1月中旬までにできたほ場

- ・2追は基準量を2月中下旬に施用。耐倒伏性の劣る品種や生育旺盛で倒伏が懸念されるほ場は、2追を基準量より減量。ただし、小麦は穂揃い期追肥を基準量より窒素成分1～2kg/10a増量（※肥料の葉面散布以外）。

#### (3) 1追を2月上旬にできたほ場

- ・倒伏を避けるため、2追は3月上旬に基準量より減量。ただし、小麦は穂揃い期追肥を基準量より窒素成分1～2kg/10a増量（※肥料の葉面散布以外）。

#### (4) 排水不良で湿害気味のほ場

- ・収量向上を図るため、2追を基準量より窒素成分1～2kg/10a増量。

表 追肥時期ごとの生育、収量および品質への影響度

追肥時期	稈長	穂数	倒伏	遅れ穂	一穂粒数	千粒重	収量	タンパク
茎立前20日	大	大	大	—	—	—	大	—
茎立期	極大	極大	極大	—	—	—	極大	中
茎立後20日	小	小	小	—	大	小	大	中
茎立後30～40日	小	小	小	大	極大	小	大	大
穂揃期	—	—	—	極大	—	極大	大	極大

以上